



台風は、どうしてできるの

熱帯低気圧が発達したもの

まわりよりも気圧の低いところを、低気圧といいます。暖められた空気は、ぼう張して軽くなり、上にあがります。つまり、上昇気流ができて、低気圧になります。

日本の南方、赤道に近い南の海上付近は、熱帯地方です。熱帯地方の海では太陽が強く照りつけ、海水の温度が高いため、湿った温かい空気がのぼり、上昇気流ができて低気圧になります。このように、熱帯地方にできる低気圧を、熱帯低気圧といいます。

この低気圧の中心に向かって、うずを巻きながら風がふきこみます。これが、台風の始まりになります。熱帯低気圧の中で、1秒間に17.2メートル以上の風がふくものを、台風とよんでいます。

日本にくる台風

熱帯地方の海上で発生した台風は、しばらく西に進みます。それから、だんだん北西に進路を変えながら、南西諸島の南にきます。そこで、さらに進路を北に変えて、北北東に進み、日本列島に近づきます。

台風が発生しはじめるときは、まだ、太平洋の高気圧の勢いが強いので、台風は、日本列島に近づくことができません。夏の終わりから秋にかけて、太平洋の高気圧の勢いが弱まってくるころに、台風は日本にやってきます。（監修・村山 貢司）

